

平成 29 年 6 月 9 日

各 位

会社名 インスペック株式会社
代表者名 代表取締役社長 菅原 雅史
(コード番号：6656 東証マザーズ)
問合せ先 取締役管理本部長 富岡 喜栄子
TEL 0187-54-1888 (代表)

中期経営計画策定に関するお知らせ

当社は、平成 32 年 4 月期を最終決算期とする中期経営計画（平成 30 年 4 月期～平成 32 年 4 月期）を新たに策定しましたので、お知らせいたします。

1. 中期経営計画策定の経緯

当社は、平成 28 年 6 月 10 日に発表した中期経営計画に基づき、拡大するモバイル機器やウェアラブル機器市場のみならず、第四の波といわれる IoT や AI などに数多く使用される重要なデバイスである精密基板やフレキシブル基板メーカーの検査ニーズに対応する高性能 AOI 及び AVI の事業に積極的に取り組んでおり、着実に成果を上げてまいりました。

上記の通り戦略的に取り組んできたこの一年で以下の 3 つの製品カテゴリー、フレキシブル基板や COF を対象としたロール to ロール AOI 及び AVI、ロール to ロールの検査技術をベースとしたインライン検査、次世代向け超精密基板向け検査、それぞれの分野において幾つかの状況及び中期的な見通しについて見直すべき変化が生じております。

また、本年 1 月に事業譲渡により子会社化したクラーロ株式会社は、病理検査のデジタル化への取り組みが具体的に進捗してきていることや、スイスの子会社である First EIE SA においては、成長に向けた取り組みが成果を上げてきていることなど、グループ全体が中期的な成長への取り組みのもとに変化してきております。

このような状況の中で、中期的な成長をより確実にするため、さらにその後の持続的な成長を実現するために、ここに平成 32 年 4 月期を最終年度とする中期経営計画を発表いたします。

2. 中期事業の方針（成長シナリオ）

(1) 外観検査装置事業

当社は現在、次世代半導体向けのフラットベッドタイプの超精密基板検査装置、フィルムベースの回路基板向けにロール to ロール検査装置、チップ部品やフラットパネルディスプレイ検査用のインライン検査装置の 3 つのカテゴリーにフォーカスして事業を展開しており、主要顧客との緊密な関係のもとに、これらの分野の検査ニーズに対応したハイスペックな検査装置の開発・供給を通し、他社にない多くのノウハウを積み重ねてまいりました。

上記3つの製品分野は、いずれも今後継続して高い成長が見込まれる分野であり、生産量の拡大とともに回路パターンの微細化が進化していくことから、当社は、今後さらに進化する検査ニーズにタイムリーに対応するための開発投資を継続し、ニーズに対応した検査装置を提供することで顧客との信頼関係を強化し、成長の原動力となるよう取り組んでまいります。

外観検査装置は、以下の主力製品ラインナップを軸に展開してまいります。

◆フラットベッド型精密基板検査装置

SX5000 シリーズ（最も微細なパターンを検査できる高性能AOI）

◆ロール to ロール型検査装置

TR7000 シリーズ（COF※用ファイン対応AOI）

（※COF：チップ・オン・フィルム、液晶や有機ELパネルの表示用半導体に使用されるフィルム状の精密基板）

TV7300 シリーズ（COF用ファイン対応AVI）

RA7100 シリーズ（フレキシブル基板※対応AOI）

（※フレキシブル基板：絶縁性を持った薄く柔らかいベースフィルムと銅箔等の導電性金属を貼り合わせた基材に電子回路を形成した基板。柔軟で、自在に曲げることができ、薄く、かつ非常に軽量であり、あらゆる電子機器の小型軽量化・薄型化に欠かせない存在。）

◆インライン型検査装置

WE700 シリーズ（チップ部品、フラットパネルディスプレイ用検査システム）

(2) プリント基板製造装置事業

First EIE は、プリント基板用フィルム原版の印刷装置であるフィルムプロッターが主力製品ですが、昨年、幅 1.6m のフィルムに対応した大型のプロッターを開発し、大画面のタッチパネル分野に進出して実績を上げております。

今後は、従来からのベストセラーである基板用フィルムプロッター（RP シリーズ）及びダイレクトイメージング（EDI シリーズ）に加え、大型プロッターにも力を入れて、成長戦略を実施してまいります。

(3) デジタルパソロジー関連機器事業

本事業については、事業譲渡の手続きが長期化しておりましたが、本年1月12日に無事事業譲渡が実行され、クラーロ株式会社として新たなスタートを切りました。これに合わせ、インスペックが持つ技術を投入し大幅に性能を向上させたWSI（※）の新製品UH-5Sの開発を進めており、本年9月にリリースする予定です。

この製品は、今後実施される予定のデジタル画像での病理検査に対する保険収載を視野に入れ、高速撮像・5検体連続撮像・省スペース・適正価格を実現する戦略的な製品で、今後広く採用が進むと見込まれる多くの医療施設にとって導入ハードルが大きく低下する画期的な商品です。

今後、旧クラーロの製品に UH-5S を加えたラインナップで、国内のみならず海外の市場も視野に入れて、病理分野のデジタル化のニーズに貢献してまいります。

(※ W S I : Wole Slide Imaging)

3. 中期経営計画数値目標

本中期経営計画期間の第30期及び第31期は、第32期以降の拡大期に向け人材の増強と育成及び販売及びサービス体制の強化を実施する期間として位置付けており、売上高成長率は固めに見ております。

医療関連機器事業は、デジタル化の動きが流動的なことから昨年度に策定した計画を修正しましたが、状況が変化した場合は計画を見直します。

平成29年度策定の中期経営計画の数値目標 (※)

(単位：千円)

		第30期 平成30年4月期	第31期 平成31年4月期	第32期 平成32年4月期
外 観 検 査 装 置 事 業	フラットベッド型検査装置	1,000,000	1,100,000	1,150,000
	ロール to ロール型検査装置	620,000	790,000	1,230,000
	インライン検査装置	70,000	100,000	200,000
	自動機、その他	110,000	110,000	120,000
合 計		1,800,000	2,100,000	2,700,000
プリント基板製造装置事業		750,000	936,000	1,000,000
医療関連機器事業		100,000	200,000	300,000
連結売上高計		2,650,000	3,236,000	4,000,000
営業利益		150,000	400,000	650,000
経常利益		131,000	350,000	600,000
当期純利益		142,000	290,000	420,000

(※) 当社の製品について、必ずしも計画通りに販売できる保証はありません。

検査装置事業は、受注から検収まで約4ヶ月を要し、ユーザーの検収に基づき売上計上をしております。また、1台あたりの製品が比較的高額であることから、ユーザーの検収タイミングによっては事業年度期間を前後することで当社の売上が変動し、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

4. 財務及びキャッシュ・フロー方針

当社グループは、事業における生産活動及び技術開発や製品開発等の投資活動をベースとして企業価値の向上を目指し、最適な財務及びキャッシュ・フロー戦略を実行してまいります。

今後、本中期経営計画の中で創出されるキャッシュ・フローは、成長を支える戦略製品の開発に重点を置きつつ、健全な財務バランスを維持して活用してまいります。

また、まとまった大口受注の発生等により一時的な資金需要の発生が想定されますが、主要取引金融機関との良好な関係を構築し機動的な資金調達による事業資金の安定化に努めてまいります。

剰余金の配当につきましては、本中期経営計画にもとづいた利益計画をもとに、具体的な方針の検討を始める予定ですが、将来に向けた成長性の高い事業に戦略的に取り組んでいる現状を踏まえ、人材育成や開発への先行投資及び受注の増加に対応するための内部留保とのバランスを考慮し、長期に渡る安定的な配当を実施できるよう方針を定めてまいります。

5. 経営基盤強化に向けた主な取り組み

(1) 経営戦略

当社は昨年、ニーズの拡大が続いているフレキシブル基板メーカー様及び普及期に入りつつある4Kテレビや有機ELテレビに使用されるCOFメーカー様に、ロール to ロール型高性能検査装置の提案を行い、複数の大手メーカー様との商談を進める中で受注実績を積み上げて参りました。当社では、メーカー様各社とも今後の生産規模拡大に伴う設備投資を実行していくと予想しており、継続するニーズの拡大にタイムリーに対応することが出来るよう取り組んでまいります。

また、当社が2年前から取り組んでいた精密電子部品のインライン検査システムは、実際の製造ラインでの評価テストで優れた検査性能が確認され、今後徐々に量産ラインへの導入が進むと予想しております。さらに、すでに多くの実績をもつフラットパネルディスプレイ向けインライン検査システムは、中国市場での旺盛な増産計画に伴う設備投資需要を背景に、今後も引き続き受注を獲得できると見込んでおります。

従来から高い競争力を持つ超精密基板向け検査装置分野では、拡大を続けるクラウドサーバー分野や急展開しているAI分野でCPUやGPUの高性能化に伴い、次世代の超精密基板向け検査装置のニーズに継続して対応してまいります。

以上の通り、検査装置事業の主力製品のいずれもが成長基調にあるため、生産能力、品質保証体制及びサービス体制の強化を進め、検査装置事業の成長を確実に実行できるよう取り組んで参ります。

プリント基板製造装置事業においては、主力製品であるフィルムプロッター及びダイレクトイメージング装置に加え、大判フィルムに対応したレーザープロッターをラインナップに加え、事業の拡大に取り組めます。

一方、デジタル化の大きな変革期を迎えている病理検査分野では、大きな可能性を持つWSI事業について、国内市場のみならず海外市場も視野に入れ、製品の販売はもとより顧客

となる国内外の医療機関への最適なサービスの開発に注力し、法改正のビッグチャンスを実実に捉えるべく取り組んでまいります。

以上の通り、当社グループは、それぞれが持つ高い技術をベースとした競争力のある製品をベースとして、高い成長性を持つ製品分野にフォーカスしていくことで、グループ全体の成長戦略を実行していく方針であります。

(2) スリムでシンプルな経営体制

当社グループはいずれも製造業ですが、メーカーとしては極めて小規模な企業体制を取っております。この小規模体制であることを強みとして生かし、その上でグローバルマーケットに向けて事業を展開していくため、コア技術及び業務は社内で確立し、アウトソーシングが可能な業務については、外部企業の協力を得ることで必要な生産能力を確保し事業の拡大を図ってまいります。

このため、販売活動のみならず生産業務、サービス業務、一部の開発業務等についても、国内外を問わず求める能力とコストのバランスを検討し、最適なパートナーと判断出来る企業との協力関係を構築して事業活動を進めてまいります。

なお、本中期経営計画の実現のため、販売部門、サービス・サポート部門、設計及び開発部門それぞれの部門でマンパワーの増強に取り組んでおり、若手社員の育成とともに、将来の事業拡大を支える経営基盤の強化に取り組んでおります。

この方針のもとに、高成長・高収益を目指し、強固な経営基盤の構築を実現してまいります。

上記に記載した数値目標については、現時点で入手可能な情報に基づき、当社で判断したものであります。この数値目標には、さまざまな不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの数値と異なる場合がありますので、当該情報に全面的に依拠して投資等の判断を行うことは差し控えていただきますようお願い致します。

以 上